



芭蕉は当時の仙台城を仰ぎ見たところ、今も一部の城跡が残る。宮城県仙台市。芭蕉庵ドットコム提供

新編日本古典文学全集第71巻・松尾芭蕉集2『紀行・日記・俳文・連句編』(小学館刊)から転載。校注者・井本農一、久富哲雄

## 奥の細道

松尾芭蕉

名取川をわたつて仙台に入。あやめふく日也。旅宿をもとめて四五日逗留す。爰に画工加右衛門と云ものあり、聊心あるものと聞て知る人になる。このもの、「年比さだかならぬ名どころを考置侍れば」とて、「日案内」宮城野の萩茂りあひて、秋の気しきおもひやらる。玉田・よこ野、つゝじが岡はあせび咲比也。日かげももらぬ松の林に入て、「爰を木の下のと云」とぞ。むかしもかく露ふかければこそ、「みさぶらひみかさ」とハよみたれ。薬師堂・天神の御社などおがみて、其日ハくれぬ。猶松嶋・塩がまの所へ画にかきて送る。且細の染緒つけたる草鞋「足はなむけす。されバこそ風流のしれもの、爰に至りて其実をあらはす。

**あやめ草**  
あしむすばわらぢ  
**足に結ん草鞋の緒**  
かのかつと  
彼画図にまかせてたどり行は、おくの細道の山際に十符の菅有。今も年々十符の菅孤を調て国守に献すと云り。

十 仙台



## 古典の日

### 毎日が「古典の日」

東京駅から新幹線に乗れば、ときには福島まで飛ばして、一時間半余りで仙台に着いてしまふ。実に忙しい。それにくっへ芭蕉たちはまさに龜の歩み。歌枕を尋ね、各地の俳人たちと交歓し、いわば毎日が文化の日、古典の日の旅だった。仙台より二里余り手前の名取川も壬生忠岑の歌以来の歌枕、それを渡って、伊達領六十二万石の城下に入ったのは、五月四日(陽暦六月二十日)、つまり「あやめふく日」の夕刻だった。仙台で知り合いになったのが画工加右衛門である。芭蕉はこの地の名士あてに何通かの紹介状も貰ってきただけで、相手が留守だった病氣だった。俳諧では大淀三千風が知られていたが、彼も留守で、そのかわりに三千風の高弟で俳諧書林を営む北野屋加右衛門、俳号加右とめりがあったのである。これがなかなかの風流人だ、しかもみずから言うように近年この地の歌枕をめぐり調査に当たってきたという男だった。元禄社会の安定繁栄とともに日本各地に新たな文運が生じてきていたが、仙台藩でも歌枕再生による地域文化振興策が進められていた。加右衛門は民間からこれに携わった一人だったという。芭蕉はこの恰好のボランティア・ガイドを友に得て、快晴の一日、仙台近郊の歌枕を宮城野からつづじが岡へと歩きまわった。その名も木の下という暗い薬師堂の森に入ると、こども、上から露が降るから「お供の人よ、御主人に御笠を召せと申されよ」との古歌による歌枕の地なのであった。

### おくのほそ道

芳賀徹さんとたずねる

加右衛門はこまやかに気の利く通人だった。芭蕉・曾良との別れに際しては、塩釜、松島までの路程の絵図を描いてくれた。珍しい土地の品の饒れ他に、蘘の紐の代りに紺染めの麻の緒をつけたしやれた草鞋二足を揃えてくれたりもした。旅先でこのような意外な親切に会うことほど嬉しいことはない。芭蕉はその紺の染緒をあやめ草に見立てて一句を残し、足もとも心も軽く雨上りの朝を松島へと出立したのである。



### 会社の60周年に歌碑建立

誰しも子供のころ、お正月に兄弟や友だちとカルタ遊びをした楽しい思い出があるでしょう。

**古典と私**  
それが、日本人として古典に親しむ最初の機会になるように思っています。

北尾 哲郎 さん  
経済同友会 代表幹事



古典とは、何も難しいものではなく、日常の子供の遊びの中で脈々と受け継がれてきたものなのです。

京都商工会議所が創立百二十周年事業の一つとして「小倉百人一首歌碑建立」を提唱したとき、弊社(日東薬品工業)もちょうど六十周年でしたので、よい記念になると思い、それに協賛しました。

私が選んだのは、平兼盛の「しのぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで」でした(碑は京都市右京区の嵯峨・亀山地区に建立し、平成19年完工しました)。

当時のオールスターによる歌会で、一位に選ばれた恋歌です。内容については、男性であれ女性であれ、時代を問わず誰もが少しは経験したことでしょう。

恋愛だけでなく、仕事においても相手の思いを感じることがとても大切です。そのようなことをこの歌は教えてくれます。



大徳寺境内にある「平康頼の塔」(京都市北区)

### 文学ウォーク

紫野大徳寺の壮麗、重厚な三門・勅使門の南に、ひっそりとたたずむ古色蒼然としたお地蔵さまがあります。自然石の表側に地蔵尊像が、裏側には宝塔が浮き彫りにされています。かたわらには「平康頼の塔」と刻まれた碑が立っています。

1177年、後白河院の近臣たちが、東山鹿ヶ谷の俊寛僧都の山荘で平氏討伐の密議をおこない、これが発覚して平氏の弾圧を受ける、世に言う鹿ヶ谷事件が起こります。清盛に不満を持ち、密議に加わっていた検非違使、平判官康頼は捕えられ、共謀者の藤原成経・俊寛らとともに鬼界ヶ島に流罪となります。

紫野の辺に庵を結んでいた康頼の母は「どうか息子が無事に帰れますように」と日夜お地蔵さまに祈願したと伝えられています。

翌年、康頼は中宮徳子の皇子出産による恩赦で都に帰ることができましたが、そのとき母はすでに亡くなっていました。

第二次大戦中には出征した息子や夫の無事帰還を祈ってお地蔵さまに日参する人たちの姿が見られたといわれます。

時を隔てても変わらぬ親子、肉親の情愛がお地蔵さまのまわりからひそやかに伝わってくるようです。

(NPO法人・都草 谷 衣子)

### お地蔵さまから垣間見る肉親の情愛

## 親しむ

フォトジェニック ウェディング スタジオ クリスマスキャンペーン

# Photogenic Wedding Studio Christmas campaign

お申込期間 2009年12月6日(日)~12月末

撮影実施期間 2009年12月6日(日)~12月末

特典 期間中いつでも

平日撮影 ￥20,000 OFF!

土日祝撮影 ￥10,000 OFF!

基本プランに含まれるもの

衣装 + メイク + 撮影 + フォトリタッチ + データ

Simpleプラン

平日撮影 ￥48,000(税込) → ￥28,000(税込)

土日祝撮影 ￥48,000(税込) → ￥38,000(税込)

※他のプランもご用意。詳しくはお問合せください。

※店舗によっては取り扱っていない商品もございます。詳しくはお問合せください。

※お選びいただいた衣裳によっては、追加料金がかかる場合があります。

※衣裳は2点以上のご利用から、新着種1点¥20,000(税込)、新着種1点¥10,000(税込)の追加料金がかかります。

※他のキャンペーンとの併用はできません。

※キャンペーン割引率は1組様1プランのお申込とさせていただきます。

※年末は店舗により休業日があります。お電話にてお問合せください。







■お申込・お問合せは  
**ワタベウェディング**

●京都グランドプラザ:075-411-4111  
●大阪グランドプラザ:06-6374-4111  
●滋賀店:077-562-4111

http://www.watabe-wedding.co.jp/